

根曲り材，小径木，端材等 による新規製品の開発研究

池 田 次 男

目 的

根曲り材や小径木，端材や廃材等，木材中の節や目切れ等の弱点をカバーし，大径木や長尺物あるいは，造形物等に成形し，集成材として利用の拡大を図る。

概 要

試作に当って，ミニフィンガーカッター（兼房製）Lタイプのスタンダード型を用いた（4P外径121，刃厚4 14枚セット）
材料は杉材 加工板巾50耗 接着剤は尿素系樹脂を用い，圧縮については，ネチ縮による圧縮治具を鉄製にて制作したものを用いた。集成圧縮については，長尺用冷圧プレスを用い集成材に成形した 構造用集成材として，今回は建築構造部材の敷居，鴨居，丸柱，

内装用壁材を主に試作を行った。フィンガジョイントの工法の利用によれば，曲面造形物など，利用の領域は拡大されていくが，材料の選定，乾燥度，接着度，圧縮力など，集成材として，信頼度をその用途において，十分検討し，形状 製造条件など考慮して試作研究を行った。

成 果

現在までのソリット材や張合せによる材に対し，フィンガジョイント構法による集成材としては強度的にも，また木材資源の節約の面からも，大いに期待され，その利用開発の域は非常に広い 今後もしろいろ検討を行いながら引継ぎ，利用開発を図りたい。

県産硬質材の内装材としての開発研究

鎌 田 正 義

目 的

県産硬質材の特性を生かし，切削法及び接着加工法等の研究を行い，内装材としての新製品の開発をおこなう。

概 要

現在企業化の域に達しているものもあるが，輸入材の化粧板としての種類は限られていることゝ，県産広葉樹の再認識の見地から，フ

ローリング材，内装材としての切削法，接着法，着色法等の研究を行った。

成 果

広葉樹のうち，いすのき，たぶのき，ねむのき等については好結果を得たのでフロア材内装材として現在市内企業において量産中である。